

200年度 2月 ~ 200年度 8月 理事会・委員会報告

環境芸術学会 2004年度第 1 回常任理事会

日 時：平成 14年 4月 2日(土) 13: 30-

場 所：アトリエMOV

出席者：伊藤隆道(会長) 池田政治(副会長) 國安孝昌(編集)
クリストフシャルル(国際交流) 池村明生(研究)
前田義寛・宮川輝行(企画広報) 高須賀昌志(総務)

事務局出席者：高橋綾 酒井正

【報告事項】

1. 新規会員および退会会員について報告され承認された。
2. 各委員会報告
 - ・編集委員会 次号学会報の編集方針について説明がなされた。
 - ・学会誌委員会 投稿及び査読等の状況について報告された。
 - ・メールマガジンおよびホームページ 運営状況について説明、報告がなされた。

【協議事項】

1. 次回大会の下記の項目について協議され種々意見交換がなされた。
スケジュール
 - ・ 11月 8日 ~ 12日 準備・ 13日(土) 懇親会
 - ・ 13日 ~ 14日 レクチャー、シンポジウム・ 13日 ~ 20日 展示会第 5 回大会実行委員にを下記の通りとすることが承認された。
実行委員長：シャルル氏 実行副委員長：森豪男氏
大会内容について協議され以下のような意見がだされた。
学会企画と武蔵美の企画の調整をし、内容を徐々に決めていく。
学生の交流をテーマにしたらどうか？
2. 第 6 回大会候補地について協議され以下について継続審議とした。
 - ・ 原案として北海道、札幌で行う。スピカ
 - ・ 次回の大会で札幌大会の計画を発表する。
 - ・ 教育大の佐々木先生、寺田先生を中心に、、、
 - ・ 北海道の学会と環境芸術学会のコラボレーション
3. その他 今後の学会の運営について協議され以下のような意見交換がなされ継続審議とした。
今後の理事どうするか？ ・九州支部の井口理事は埼玉大学に移ったため、九州理事をどうするのか。

・ 部会活動の活性化について

- ・ 支部の代表の方の人数
- ・ 海外ネットワークを強化する
- ・ 大会だけでなく気楽に集まることをしたらどうか？
見学会をおこなうのは？
- ・ エリアごとに(地域性を生かす地域交流会)テーマをもって行ってもらうのは？ 後で報告。
- ・ 会員が何をやっているのかを把握するための冊子などを作るのは？
- ・ 昨年大会の福島の方々と交流を
- ・ 九州長崎大学の方を支部長へ

環境芸術学会 2004年度第 2 回常任理事会

日 時：平成 16年 6月 12日(木) 15: 00- 17: 30

場 所：武蔵野美術大学 12号館 5 階クリストフシャルル研究室

出席者：伊藤隆道(会長) 池田政治(副会長) 横川昇二(監事)
クリストフ・シャルル(第 5 回大会実行委員長)
前田義寛・宮川輝行(企画広報) 高須賀昌志(総務)

事務局：酒井正、高橋綾

【協議事項】

1. 第 5 回大会会場下見
第 5 回大会会場となる武蔵野美術大学キャンパスを見学
展示会場やキャンパス内のスペース等の下見をおこない、大会について種々意見交換をおこなった。
また、学生参加について直接、学生の声を反映させるべくミーティングを設けることとし、実行委員長に日程および会場等について一任することとした。
 - ・ 進行、場所：12号館地下、9 号館新館を展示会場とする
 - ・ 5 日間 準備期間(8~ 12日)
 - 大会開催日 11月 13 14日 展示会 10~ 18日 搬出日 19日(金)
 - 武蔵美の学園祭：10/29- 11/1 片付け 2- 6 授業開始 8 日から

環境芸術学会 2004年度事務局会議

日 時：平成 14年 8月 4日(土) 18: 00-

場 所：アトリエMOV

出席者：伊藤隆道(会長) 宮川輝行(企画広報) 高須賀昌志(総務)
趙慶姫(編集委員)

事務局出席者：小日向千秋 高橋綾

【協議事項】

1. 第 5 回大会について特に学会報掲載のための事項について原案を作成することとし次回理事会に諮ることとした。
テーマ 『環境芸術-内・外-』
テーマ説明(趣旨) シャルルさんに書いて頂く
組織(案)
大会会長 伊藤隆道 大会副委員長 森豪男 実行委員長 :クリストフシャルル

・ 実行委員 馬場美次、伊坂さん、逢坂さん、石井拓洋さん
日程

11/ 8~ 12日 ワークインプログレス (作る過程を見せる)
13日 研究発表、懇親会 13~ 14日 レクチャー、シンポジウム
13~ 20日 展示会

プレイベント・エキスカージョン

・ 前半にレクチャー、発表会(講評会)または学生によるシンポジウム

・ 学生の研究発表をやる ・ 14: 00から大会受付

シンポジウムパネラー(案) テーマ [内外 naigai] および候補者

・ シャルル、武蔵美の教員(色彩学)、伊坂(または札幌関係)

コウ [中国] 蔡さん通訳] [同会：横尾]

参加費

・ シャルルさんに懇親会費を検討してもらう

・ 会員 5000/ 非会員 6000/ 学生無料

会員紹介

パネル A3で展示する + スライドショー jpg(馬場)

環境芸術学会 2004年度第 3 回常任理事会

日 時：平成 16年 8月 12日(木) 17: 00- 20: 30

場 所：アトリエMOV

出席者：伊藤隆道(会長) 池村明生(研究) 宮川輝行(企画広報)

高須賀昌志(総務) 横川昇二(監事)

趙慶姫(編集委員) 伊坂重春、馬場美次(第 5 回大会実行委員)

事務局：小日向千秋、高橋綾

【報告事項】

1. 以下の 2 件について入会が承認された
正会員 関玄達
賛助会員 名古屋造形芸術大学図書館(江本菜穂子氏)
2. 編集委員会報告
次号刊行予定の学会報について 8 月末の発行に向けての準備状況が報告された

【協議事項】

1. 第 5 回大会について事務局の提案を基に種々検討の結果下記のように決定した

環境芸術学会第 5 回大会(案)

大会テーマ 『環境・連繫・芸術』

大会役員 大会会長：伊藤隆道 大会副会長：森豪男

実行委員長：クリストフシャルル

実行委員：伊坂重春、馬場美次、石井拓洋

広報委員：前田義寛 宮川輝行

大会事務局：クリストフシャルル、高須賀昌志、小日向千秋、高橋綾、酒井正

会場 武蔵野美術大学

大会日程

ワーク・イン・プログレス(学生、他による作品制作) 11月 8日(月)~ 12日(金)

展示会 11月 13日(土)~ 20日(土)

第 5 回大会 11月 13日(土) 14日(日)

13日(土) 13: 00- 受付

13: 30- 16: 30 学生によるディスカッション(作品発表)

17: 00- 総会

18: 00- 懇親会

14日(日) 9: 30- パネル発表/作品発表

10: 30- 口頭発表

12: 30 昼食

13: 30- シンポジウム

参加費 参加費 会員 5000円/一般 6000円/学生 無料

懇親会費 会員 3000円/学生 2000円

大会内容

研究発表

口頭発表/パネル発表/作品発表

以上の形式については例年通り受付は武蔵野美術大学クリストフシャルル研究室。発表場所(展示場所)についてはシャルル実行委員長が展示計画概要集については事務局で取りまとめ発行する

部会報告

各部会の活動内容や活動報告を展示(展示は各部会による)もしくは報告を行う 各部会長がシャルル実行委員長と要打ち合わせ

次年度開催場所ブース

次年度開催地(札幌)の担当者伊坂重春/國松明日香がブース担当

シンポジウム

担当/コーディネータ/司会 横尾哲生(会員)

パネラー・シャルル(実行委員長) 武蔵野美術大学の先生 候補者

新美隆教授 医学(精神科医)など専門家

学会報のための原稿を早急に作成するためにもシンポジウムの主旨等について原稿作成(8月 20日まで)横尾が作成

イベント

コラボレーションによる制作(学生を主体とした作品制作 - 仮称 -)

・ コーディネータ 池村明生

- ・ワークインプログレス形式で現場でのコラボレーション制作（個人でも可）を主体とした作品展
 - ネットワークイベント（フランスの教育機関「Ecole superieure d'art d'Aix-en-Provence」とインターネットで結ぶ）
 - 会員紹介
 - 映像によるもの / A3プレゼンテーションシートによるもの（ホームページと連動）
 - ・会員全員参加 ・この機会に全会員のデータ整理を行う名簿作成 / 研究分野や専門について情報交換のためにも整理 / 公開（会員内）
 - 環境芸術学会情報整理プロジェクト
 - プロジェクトリーダー 池村明生
 - プロジェクトメンバー 宮川輝行 小日向千秋 酒井正
- その他
- ・学生主体のコラボレーション制作は公募する（会員だけでも、会員＋学生、学生だけ、個人、いずれの形態でも可）
 - ・ネットワークイベントについてはシャルル実行委員長と前田理事に計画をお願いする。
 - ・基調講演はなし

第5回大会ミーティング（1）

日時：6月30日（水）18:00-20:00

場所：武蔵美の「新宿サテライト」（新宿センタービル9F「ROOM A」）

出席者：理事・事務局 / シャルル実行委員長、伊藤会長、池田副会長、趙宮川、高須賀、高橋、酒井

ゲスト / 横尾（埼玉大学）、平戸（女子美）、石山（女子美）
学生 / 芸大 8名、女子美 8名、埼玉 3名、群馬女子 2名、武蔵美 1名

シャルル会実行委員長が武蔵美の会場をスライドを交えて概略を説明し高須賀理事の司会のもと、大まかに2つのことが話し合われた

1 学生参加について

このことは学生もいきなり言われても何とも言えないといった反応が多く環境芸術とは、学会とは、といった話が会長よりされた。学生にとっては雲をつかむような感じというのが本当ところではなかったかと思われる。ただ、武蔵野美術大学の広大な会場予定地のスライドをみて、ぜひ参加したい、やってみたいという声も多く、また、大学間の交流をこの機会にぜひ持ちたいという意見も多かったです。

2 大会そのもののあり方（テーマ）について

大会の位置づけをどのように考えていくかという事について種々意見交換がなされた

主な意見

- ・昨年のいわき大会の検証を行うべき
 - ・学会として環境・芸術に対する基本的な態度表明のようなことがなされるべき
 - ・作品発表にしてもテーマを設けるべき
 - ・武蔵美（武蔵野の地）に関するテーマを設けるべき
 - 再度ミーティングを設けることとし次回までに下記について各大学で意見調整をおこなうこととした。
 - 学生の参加については各大学で具体的な提案をできればしてもらおうこと
 - ・学生側からどのようなことが出来そうか？
 - ・どのようなカタチであれば参加したいか
 - ・この場所でやりたい
- テーマについては埼玉大学（高須賀 / 横尾）でたたき台を作成することとした。

第5回大会ミーティング（2）

日時：7月2日（水）19:00-21:00

場所：女子美術大学杉並キャンパス、2号館2階221教室

出席者：理事・事務局 / シャルル実行委員長、池村、前田、横川、宮川、趙、高須賀、高橋、酒井、小日向

ゲスト / 横尾（埼玉大学）原
学生 / 女子美 2名、埼玉 3名、群馬女子 2名、武蔵美 1名

池村理事の司会のもと意見交換がなされた。

1 学生参加について

- 学生の意見
- ・学生主体としたらどうすればよいかわからない
- ・何がしたいと言われても前提が見えてこない。
- ・学生の交流が大切で今回それができるように思える。
- ・武蔵美の環境といわれてもよくわからない。
- ・武蔵美のテーマだとむずかしい。
- ・環境芸術自体がテーマとなるのでは？
- 以上のような意見がだされたが前回と異なる参加者が多くいたため継続的、発展的な意見は少なかった。学会サイドである程度の枠組みを示すことが必要でありその中でどのような参加形態が可能なのかを探る必要がある。

2 大会テーマについて

埼玉大学の横尾、高須賀両会員から次年度以降の大会運営を含め提案がなされ種々意見交換された。

<横尾 / 高須賀案概略>

現在までの開催地およびテーマ

設立総会 - 東京（東京芸術大学）趣意書

第2回大会 - 東京（東京芸術大学）環境と芸術の共創

第3回大会 - 淡路（淡路園芸学校）環境と芸術の出会い - くうみの地より -

第4回大会 - いわき（アクアマリンふくしま）環境・交流・芸術

第5回大会 - 東京（武蔵野美術大学）？

第6回大会 - （候補地 札幌）

- ・学会の設立以来、東京のみならず日本各地の特色ある地域において大会を重ねてきた。今後も東京（あるいは大阪 / 関西圏）と特色ある地区との隔年の開催を理事会では計画されている。この都市圏と特色ある地区（特区）との交互の開催という点に着目して下記のような大会の特徴づけを明確化しながら長期的展望に基づいてテーマを設定したらどうかという提案。

大会の特徴

都市圏開催

- ・次年度の開催地に開くテーマを設定し研究会 / 討論会 / シンポジウムを計画する。
- ・通常個人研究のテーマに基づく展示 / 研究発表
- 特色ある地区（特区）での開催
- ・前年度から継続してきた地域の特性に関わるテーマの学会としての一つの到達点とする。
- ・通常個人研究のテーマに基づく展示 / 研究発表

シンポジウムのテーマ

都市圏のシンポジウム

芸術領域以外のあらゆる科学先端的「知」との対話（異種格闘技）

例）医学（医療建築...etc）/ 生物学（古代・海洋・宇宙...etc）心理学 / 物理学 / 考古学 / 社会学 / 歴史学 / 工学

これらの多領域の学問分野の「扇の要」として芸術を位置づけて（環境芸術）芸術を考えていく。こうした試みを10年単位ぐらいのスパンを視野に行いながら環境芸術、あるいは環境芸術の社会的機能をひろく認知させていく。

特区でのシンポジウム

特区での大会内容を、都市圏のシンポジウムで浮かび上がった問題点を特色ある地域に照らして展開し実践の場として捉える。その成果を共有しながらシンポジウムとして展開し、学会として一つの到達点を示すものとして位置づける。（以上概略）

- ・次年度を前提とするならばこうした話し合いに次年度開催の会員にも参加してもらう必要がある。
- ・専門のなかに収まらない芸術と芸術ではない分野との融合（異種格闘技的考え）
- ・環境芸術は文化が中心 歴史的な切り口はどうか？
- 学会としての柱 理想は部会の集合体（現在はうまく作動していない）現在は、大会のみが柱となっている。
- 部会の意見を引き上げたり、部会活動を活性化させる必要があるのではないか。
- 今回大会で、部会を作ったらどうか？ 同業者同士ではない部会がのぞましい

テーマ・シンポジウムの考え方

- ・キーワード的に、、、『環境芸術のネットワーク』というのはどうか？
 - ・シンポジウムは種まきと考えたらどうか？美術 芸術の意味を考える。
 - ・結論を決めつけるのではなく、疑問を投げかける学会としていかなくては！
 - ・多様なテーマのシンポジウムをおこなったらどうか？
 - ・芸術の環境、教育、都市圏であるがゆえに、色がありすぎると残ってしまう
 - ・テーマを2年間の連続にするのか、しないのか？
 - ・「芸術」「美術」の縛りはいらぬのでは？
- 両日の大会ミーティングをふまえシャルル実行委員長を中心に、事務局で整理をし大会の枠組みを定めていくこととした。

環境芸術学会 2004年度第1回編集委員会

日時：平成14年8月4日

場所：アトリエMOV

出席者：伊藤隆道、趙慶姫、高須賀昌志、高橋綾

【協議事項】

1. 次号学会報について編集内容について協議をおこなった

環境芸術学会 2004年度第2回編集委員会

日時：平成14年8月12日

場所：アトリエMOV

出席者：伊藤隆道、趙慶姫、高須賀昌志、高橋綾

【協議事項】

1. 次号学会報について編集日程および執筆依頼者について最終確認をおこなった。